

JASSO プログラム報告書

20142011 今泉千優

2023年8月から2024年2月の約6ヶ月間、スペイン・アルメリア大学で学んだことを報告する。私は主に観光マーケティングや経営戦略、マネジメントについて学んだ。世界中の企業を例に取り上げながら経営について学ぶ機会を得たことで、より高い視点から経営のあり方を考えることができた。また、「経営」という世界中で通ずるテーマを前に、様々なバックグラウンドを持つ人々と協力しながら意見交換をおこなった。

受講していた講義の一つに「Introduction to Tourism Marketing」という講義があった。この講義では世界中の名だたる企業を例に、経営手法について議論する。それぞれの企業がとったマーケティング戦略の是非を様々な角度から意見を交換した。どのようなアプローチが取られているか、このような事例ではどの手法が効果的か、議論していく中で共通して重要な軸があった。それは、「企業は Myopia 的見方をしてはいけない」というものだった。ここで登場する Marketing Myopia とは近視眼的見方と訳されることもあり、先見の明を持たず狭い視野で市場を捉えてしまう、という意味で使われる用語である。企業が顧客の Need や Want を満たすことを念頭に置かず、目先の利益を追い求めてしまう状況を指す。この状態を避けるためには企業は市場に対して偏見を持つことなく、真摯に顧客の要望を汲み取っていく姿勢が求められる。講義を受講していく中で、これは企業にとって最も重要なことであると同時に、一個人にとっても非常に大

きな考え方なのではないかと考えるようになった。

きっかけはあるクラスメイトの言葉だった。当初 Marketing Myopia について概要をうまく汲み取れていなかった私は、同じ講義を受講していたドイツ人の友人に尋ねた。彼女が説明をしてくれる中で、「飛躍しているかもしれないけど留学中の私たちの場合に例えると、人と関わる時に偏見や勝手な印象で相手を決めつけるのではなく、本質的に相手が何を意図しているのかを汲み取ろうとする姿勢が大切というように置き換えることもできるよね。」という言葉があった。何気ない言葉だったのかもしれないが、私には妙に印象的だった。もちろん講義の内容はマーケティングだが、自分事として消化しながら学んでいる彼女の姿勢にも刺激を受けた。そして、この姿勢がいかに大切であり難いか、スペインでの日々の生活で学んだ大きなものとなった。

スペインは歴史的に多言語文化を有し、カタルーニャ語、バスク語、ガリシア語といった地域言語が公用語として認められている。この多言語文化は、スペイン内戦やフランコ政権などの歴史的背景から発展し、多様な文化が共存する社会を形成している。この歴史的背景により、スペイン社会は他者の文化や意見に対して比較的寛容であり、陽気で親しみやすいとされることが多い。私自身、現地での体験を通じてこの印象を実感した。道でスーツケースを持つのを手伝ってもらったり、スーパーでのサービスを受けたり、買い物中に偶然仲良くなった人から遊びに誘われたりするなど、現地の人々との接触が非常にスムーズであった。彼らは自分達の立場や意見は持ちつつ、日本文化も積

極的に理解しようとしてくれていた。このような体験は、スペインの文化的な背景も影響していると感じられる。しかし、彼らが私にそう接してくれたように「相手の文化や意見を受け入れ、偏見を持たずに接する」ということは、実際には容易ではないことも痛感した。特に、現地で親しくなった中国人の友人との交流において、台湾問題に関する意見の相違が問題となった。この友人は台湾が中国の一部であると主張し、その意見に関する新聞記事の切り抜きを持っていた。この状況に対して、私は自分の意見をどう扱うべきか悩み、適切に対応することを困難に感じた。この体験は、自分の意見を持ちそれを表明することは重要であり、そのためにまず相手の立場を深く理解しようと努め、議論を重ねる必要があることを認識させるものであった。このプロセスは、偏見を持たずに相手を理解するためには欠かせないものであり、留学中の私にとって大きな学びとなった。

留学を通じて、私は世界で起こる事柄を自分ごととして捉える能力が向上したと考えている。また、自分の意見を持ち、それを適切に表現するためには対話と議論が不可欠であるということを理解するようになった。偏見を持たずに関わる姿勢が身につき、困っている人に対して自然に支援を行うようになったことは、留学の成果である。些細なことでも他者に対して積極的に助けようとする態度が定着し、これが私の成長に繋がった。さらに、この成長は多文化社会の構築に向けた一助となりうると考えている。現代のグローバル化が進む社会において、多文化社会の構築は重要性を増しており、それら

に適応していく体制と姿勢が不可欠になってきている。異なる文化的背景を持つ人々との対話を通じて、相互理解と共感を深めることは、多文化社会の健全な発展に寄与する重要な要素である。国際的な交流や協力が盛んになる中で、他者の立場を尊重し、建設的な議論を行うことは、グローバル社会の調和に向けた貴重な貢献となると考えられる。異なる文化的背景を持つ人々との交流を通じて、相互理解や共感を深めることが、多文化社会の調和を促進するのではないかと感じている。この経験を活かし、今後も多様性を尊重し、積極的に他者との対話を重ねる姿勢を持ち続けることが重要であると認識している。

今後は、日本企業の発展に寄与するためにコンサルタントとしてのキャリアを築きたいと考えている。グローバル化が進展する現代において、企業は国際的な視野を持ち、多文化に対する理解を深めることが求められている。私は、世界中の人々に愛されるような、誰もが互いを尊重し合える社会の実現に貢献できる企業の支援を行っていきたいと考えている。その過程で、留学中に培った姿勢「偏見を持たずに他者を理解し、建設的な対話を通じて相互理解を深めること」を大いに活用していきたい。これにより、企業の国際的な競争力を高め、より多様性に富んだ社会の構築に寄与することが私の目標である。



図 1 大学のグループワークなどもよく行っていた図書館



図 2 スペイン語のクラス



図 3 アンダルシア地方の特徴が表れた街並み